

令和2年12月20日実施 図書館講演会開催報告
岐路に立つアメリカ社会 ～『産獄複合体』とその歴史から考える～

東京外国語大学世界言語社会教育センター講師 大鳥由香子先生をお招きし、アメリカ社会における人種差別について大鳥先生のご専門である歴史学の視点から、感染症対策を講じたうえ、ご講演いただきました。

令和2年5月にミネソタ州で黒人男性が白人警察官に殺害されたことを受け Black Lives Matter 運動と呼ばれる差別への抗議運動が盛んになりました。日本の報道番組でも多く取りあげられるようになりましたが、こうした運動は今に始まったことではなく、長い歴史がありました。



1865年に南北戦争が終わり奴隷制度は禁止されたはずでしたが、実際は多くの黒人が些細な理由で逮捕され、強制的に働かされるようになりました。

「産獄複合体」とは、既存の「軍産複合体（国の軍事と産業が強く結びついた状態）」という言葉にかけた表現ですが、アメリカでは刑務所運営を民間企業へ委託することが珍しくなく、ひとつの産業になっており、世界の収監人口のおよそ4分の1が米国に集中しているとされています。黒人が些細な理由で警察に声をかけられることも少なくないのが現状です。

かつて公共機関や学校を白人用と有色人種用に分けていたような人種隔離法（ジム・クロウ法）は地道な公民権運動により撤廃されましたが、今でも課題が残っていることを、講演をとおして知ることができました。

図書館のホームページには「関連資料リスト」を掲載しています。大鳥先生に選んでいただいた推薦図書のほか、奴隷制度や公民権運動に関連する資料を多数掲載しております。ぜひご活用ください。